

《報道関係者各位》

2014年7月8日

**子どもの安全・安心に配慮した取り組みが評価され
「災害時にも子どもにやさしい家『レジリエンス住宅』CH14」
「アイフルホーム 30th」
の2プロジェクトが“キッズデザイン賞”を受賞！
～「第8回キッズデザイン賞」～**

株式会社LIXIL住宅研究所

株式会社LIXIL住宅研究所(住所:東京都江東区亀戸1-5-7/代表取締役社長:今 城幸)は、この度、経済産業省等により創設された特定非営利活動法人キッズデザイン協議会(本部:東京都港区)主催の「第8回キッズデザイン賞」において、子どもの安全安心に配慮した設計や機能が評価され、LIXIL住宅研究所 キッズデザイン研究所の「災害時にも子どもにやさしい家『レジリエンス住宅』CH14」とアイフルホームカンパニーの「アイフルホーム 30th」の2プロジェクトがキッズデザイン賞を受賞しました。



災害時にも子どもにやさしい家『レジリエンス住宅』CH14



アイフルホーム 30th

LIXIL住宅研究所では社内シンクタンク“キッズデザイン研究所”において、「子ども目線、子ども基準でつくる家は、全ての人に安全で住みやすい家」というキッズデザインの考え方をベースに、次世代を担う子どもの住環境や家庭環境について恒常的に研究開発を進めて、その成果をアイフルホームの商品として展開しています。その取り組みの結果として、過去6年連続での受賞に引き続き、7年連続でキッズデザイン賞を受賞しました。今後も子どもの安全・安心に配慮し、健康・快適で、エコにも配慮した住みやすい家の商品開発を進めてまいります。

今回受賞した項目は下記の通りです。詳細については次頁以降の＜参考資料＞をご参照ください。

＜子ども視点の安全安心デザイン※ 一般部門＞

※子どもの身体特性や行動特性、不測の状況が子どもたちにもたらす影響などに配慮し、技術や素材においてもその応用・活用が優れているデザイン

- ・災害時にも子どもにやさしい家『レジリエンス住宅』CH14 (LIXIL住宅研究所 キッズデザイン研究所)
- ・アイフルホーム 30th (LIXIL住宅研究所 アイフルホームカンパニー)

第8回キッズデザイン賞は、全272点の受賞作品が決定しましたが、今回よりキッズデザイン賞の最優秀賞として内閣総理大臣賞が新設され、8月4日には内閣総理大臣賞をはじめとする優秀作品の発表と表彰式が開催される予定です。



キッズデザイン賞とは、子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン、創造性と未来を拓くデザイン、そして、子どもたちを産み育てやすいデザインを顕彰する制度です。(キッズデザイン協議会ホームページより)

【報道関係者のお問合せ先】

株LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明
電話:03-5626-8251 メール:chigirak3@lixil-jk.co.jp
アイフルホームホームページ/TOP URL:<http://www.eyefulhome.jp/>

本ニュースリリースは、本日、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にて、広報発表しています。

<参考資料>【受賞作品】

災害時にも子どもにやさしい家

『レジリエンス住宅』CH14

LIXIL

住宅研究所

開発の背景

「あらゆる自然災害で、もっとも困難な状況におかれてしまうのは子どもたち」。ユニセフが2007年にまとめた緊急時対応マニュアルは、こう指摘しています。

そして日本ユニセフ協会は、東日本大震災の復興支援活動の目的としてBuild Back Better = 「レジリエントな社会づくり」のための支援を続けています。ユニセフ本部は、防災や復興への取り組みの中で、世界の自然災害の被害者の半数以上を占める子どもたちをどう守るかという視点を持つことと、子どもたち自身をその社会づくりの“主役”の一人として位置付けることの重要性を訴えています。(日本ユニセフ協会 東日本大震災 緊急・復興支援活動3年レポートより)

レジリエンス住宅CH14は、「こどもにやさしい は みんなにやさしい」というキッズデザインの理想を追求した新たな提案です。平常時のキッズセーフティはもちろんのこと、災害時に子どもにやさしい住宅を目指しました。災害時、電気がないと子どもは不安を感じ、ガスがなければ温かい食事を食べられず、水がなければ大人より早く生命の危機に接することになります。レジリエンス住宅は災害時に自律して生活でき、日常への回復力を遺憾なく発揮する強さを持っています。さらに日常生活では、生涯にわたり家族の健康を守る免疫力を持ち、女性視点によるしなやかな知恵から、妊婦さんの安全や子育て中の安心に繋がる提案も多く盛り込まれています。

特長

■平常時に、生涯にわたり家族の健康を守る免疫力を持つこと

→家族の絆、健康促進、加齢対応をデザイン

日常から家族が健康に暮らし、免疫力を高めるための提案をしています。妊婦や子ども、高齢者などすべての人に安全・安心な間取り、ブルーライトコントロール、良く眠れる寝室、花粉やウイルスを入れないクリーンエントランス、湿度コントロールなど様々な場面でしなやかな提案を展開しています。さらに地震時には変形量を大幅に抑え、家の倒壊を防ぐことで家族(生命)と大切な資産としての建物を守ります。

■災害時に、子どもにとって安全・安心な環境であること

→自立型エネルギー、耐震、制震の基盤をデザイン

災害時に子どもをはじめみんなに安全・安心をもたらす家です。LPガスバルクを活用した停電時対応コージェネレーションにより、災害時でも約1ヶ月間、電気、ガスを使うことが出来ます。さらに、繰り返しの地震に強い耐震+制震構造や水や食料を備蓄するレジリエンス収納の設置により、家族の安全を守り、地域の防災拠点にもなります。



クリーンエントランス



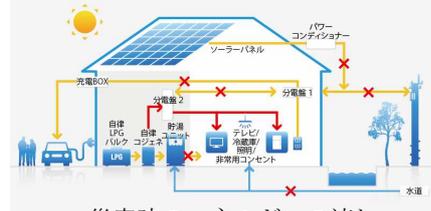
可変性のある間取り



大容量LPガスバルクと自立コージェネレーション



照明、調湿、超高周波環境音を活用した良く眠れる寝室



災害時のエネルギーの流れ

【受賞作品】 アイフルホーム 30th



LIxil 住宅研究所
アイフルホーム

開発の背景

アイフルホームは、「こどもにやさしい は みんなにやさしい」をコンセプトにキッズデザインの考え方を取り入れ、「全ての世代にやさしい家づくり」に挑戦してきました。今年で30周年を迎え、これまでの集大成として、今までの木造住宅では困難だった革新的な提案、“大空間・大開口”のオープンな間取りをベースとし、家をいつでも家族のライフスタイルに合わせて変化させていくことができる、新しい暮らし方を提案しました。

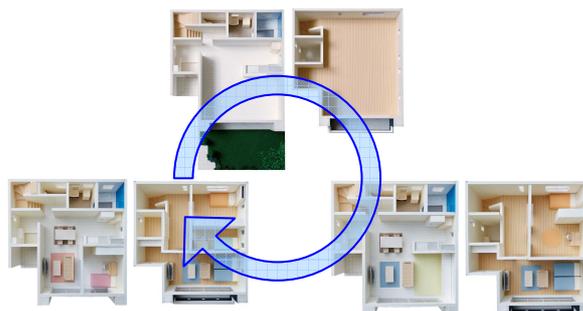
大空間でのびのび気持ちよく暮らし、さらに将来にわたって、子どもの成長や暮らしの変化に合わせて間取りを変更し、長く快適にずっと住み続けることができる家。これまでの家に家族を合わせる暮らし方から、家族に家を合わせて行くという新発想のもと、家族と子どもの安全・安心を支える新技術を更に進化させました。

特長

- ①大空間・大開口だからこそ、家族や地域の人達との絆が深まります。
大空間「アクティブスタジオ(晴れの間)」は、家族や友人とのアクティブな交流の空間。様々な体験により子どもの感性を育みます。
- ②子どもの成長やライフスタイルに合わせて、家は自由自在に変化します。
家に家族を合わせる暮らし方から、家族に家を合わせる暮らし方へ。
- ③大空間・大開口で快適に暮らすために、断熱性・耐震性を高めました。
高性能断熱パネルと北海道の断熱仕様基準に対応することで、冬は暖かく、夏は涼しく快適に。アイフルホームの新技術「高耐力コア」により、柱や壁が少ない大空間・大開口でも耐震等級3を実現。家族の安全・安心が続きます。
- ④家族みんなでプランニング。家づくりの楽しさと、家を大切に住み継ぐ心を育みます。
子どもでも簡単に操作ができる i Padプランニングシステムで、こんな部屋にしたい、こんな事ができたらいいな、といった家族の夢をその場ですぐに形にでき、家族と一緒に家づくりを何度でも楽しめます。子どもたちの想像力を育み、家族のコミュニケーションを豊かにすることで、家族の絆が強まります。



①大空間・大開口



②家は自由自在に変化



③断熱性・耐震性を進化



④家族みんなでプランニング